

北アルプス 劔岳／赤谷尾根～北方稜線～早月尾根

小暮 他

【日時】 2014年5月3日（土）～6日（火）

【メンバー】 L小暮、笹川、佐藤、松本

5月3日 曇りのち雨

前日都内から脱出するのに少々時間がかかり、少ない仮眠の後、翌朝馬場島に到着、眠い。警察の派出所のある一番上の駐車場は満車だったので少し下の駐車場に止めて身支度を整え8:50出発。朝は天気がよくこれから向かう劔岳が青空に映えている。でも午後から天気は下り坂、今日はどこまで行けるだろうか。

赤谷尾根に向かう林道を小1時間歩き、ブナクラ谷と白萩川に分かれる林道分岐に出合う。ブナクラ谷に向かえば赤谷尾根末端から取付くことになるが、私たちは白萩川に進路をとり500～600mほど歩いた一番手前の尾根から取付いた。

踏み跡や赤テープがついていて藪はそんなに悪くない。休憩をとりつつ2時間かけて1400m付近にたどり着く。ここで赤谷尾根末端のルートと合流し、雪もつながり歩きやすくなっていく…と思いきや、途中何箇所も雪が切れて結構歩きにくい。1500mを越えヤセ尾根になった頃やっときれいな雪山になった。この頃からガスがたちこめ、やがて雨がパラパラ降り出したため雨具を着込み再び歩き出す。14:25に本日の宿泊予定地1930m付近に到着し、本日はここで幕とした。整地をしている間に雨は本降りとなり皆びしょ濡れになりながらテントに転がり込んだ。雨は夕刻には止んだが夜中も風が強く一晩中テントが揺れていた。（記：佐藤）



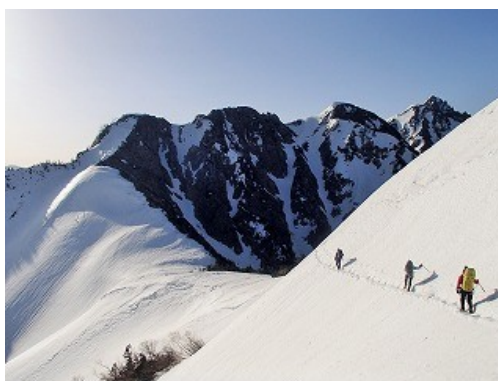
赤谷尾根を登る

5月4日 晴れ

明るくなり始めた頃にc.1を出発すると、少し登ったコルに昨日見かけた別パーティが泊まっていた。赤谷山までの登りは、雪が硬くしまっていてアイゼンが良く効いて歩きやすい。山頂直下の岩場は右の雪の斜面から巻いて登った。赤谷山の頂上に出ると、朝の遮光に輝く劔岳が大きく見えて感激した。後立山もずらっと見えた。



赤谷山にて劔岳をバックに



白萩山のトラバース

展望を楽しんだ後、白萩山のピークはトレースにしたがって広い斜面をトラバースして赤ハゲまで登る。細いリッジもトレースがついているので特に問題ない。白ハゲの手前は岩とガレが露出していて、夏の踏み跡らしきガレ道をトラバースしてちょっとした岩場を乗り越すと、上に出た。コルまでの下降は急な雪壁となっているので富山側に回り込んで下り、藪が露出した尾根を登っていく。大窓への下降では、稜線どおしに藪漕ぎして進み、そのまま真っ直ぐ雪の斜面のシュルンドを回り込んで下ったが、藪がうるさく富山側のガレ沢側を降りた方が早かったようだ。

大窓に着いたところで、前後して歩いていた後続の4人組のパーティと会話すると、彼らは明日の悪天を考慮して今日は頑張っ三ノ窓まで行くようだ。我々も計画では小窓までとしているが、できれば三ノ窓まで行っておきたい。時間的に厳しいようなら予定通り小窓に泊まり、予報では明日の昼から崩れるようなので、早出して雨が本格的に降り出す前に劔岳山頂付近の適当なところに早めに泊まるということを考える。明後日は晴れそうなので、どちらにしてもなんとかなりそうである。



だんだん劔が大きくなってきた

大窓からまるで天国への階段のような長い踏み跡をたどって大窓の頭へ登る。その先のコルで我々が休憩していると、同様に前後していた2人組のパーティはそのまま先行して進んでいったが、ちょっとした雪壁でロープを出してコンテで登っている。待たされそうかなと心配したが、案外早く、あまり待たされることなく続く。トレースがあるので問題はなかった。

このあたりは劔岳が次第に大きくなってくる展望が素晴らしい。入り組んだ尾根のアップダウンを繰り返して、池ノ平山に出た。ここでサトリカさんが、腰が痛くて仕方ないと言うので、荷物を少々分けて、痛み止

めを飲んで休憩。

小窓までの下降は急な斜面、岩の段差などが続く。サトリカさんの腰も心配なので、慎重にロープを出して懸垂を3回ほど行くと小窓に着いた。私が最後にロープを回収してまとめてから小窓に着くと、他のメンバーは天場跡地でまったりと休憩していた。どうやら、天気も良いし、昨日湿ったシュラフを乾かしたいとのこと。頑張って三ノ窓に行っても良かったのだが、もともと3日で行けるルートなので、明日は早出して半日行動でもよいだろうと思い、本日はここまで。テント場跡を拡張して夕刻までの晴天を過ごした。（記：小暮）

5月5日 曇りのち風雪

今日は予報どおりの天気のように、雨は降ってはいないが、重い雲が頭上を覆っている。テントを張った小窓の目の前には約250mの急な登りが見える。本日、朝一番の大仕事である。薄暗い中、ヘッドンの明かりを頼りにひたすら無言で登る。小窓尾根との合流地点に着くころ、ヘッドンはいらなくなったが、薄暗い。小窓ノ王の手前で剣尾根が見えると、今年のGWにR4を登った小暮さんが、「あれがR4」と教えてくれるが、岩の割れ目に氷らしきものが見えるが、鼻水のような氷柱をどうやって登るのか…。しかし最近、ICでは人気のルートらしい。



三ノ窓への下り

小窓ノ王の基部で懸垂のセットをしていると、雨ではなく、雪がちらつき始めた。雨よりはマシかと思うが、今日はどこまでいけるのだろうか。2回の懸垂下降とトラバースを交えて、池ノ谷左俣上部へ下り、三ノ窓に到着。目の前に、一反木綿のような池ノ谷ガリーが立ちはだかる。3年前の夏、池ノ谷を登ったときはグズグズの砂礫に足をとられ、一向に進まず、車輪をえんえんと走るハムスターのようだったが、今回も砂礫が雪になっただけで、状況は変わらない。夏と違うのは使う筋肉の部位である。雪壁のような斜面をアイゼンの前爪で登るので、ふくらはぎの小さい筋肉がずっとぶるぶる震えている。



ふくらはぎが辛い

長く急なガリーを登り、池ノ谷乗越に到着すると降雪は一段と強まり、白一色の世界になった。今日ここで泊まりたいいい…と強く念じたのだが、私の儂い願いは小暮さんには届かなかった。小暮さんは先を進



む。ここから劔岳山頂へと稜線を進むが、景色が見えないので距離感がつかめない。夏の記憶と照らし合わせようとするが、現在地がわかったのは見覚えのある長次郎ノ頭を巻いていたときだった。ようやく山頂らしき場所に到着したが、雪で目印の祠も埋まっている。でもここだよ、と記念撮影をした途端、さらに風雪が強まった。ツブツブの雪はBB弾と化し、顔面を打ちのめす。これが痛いなのって、目すら開けていられない。顔面美容法よねえ、と笑い飛ばしたいが、それどころではない。山頂直下にあったテント跡で小休止し、早月尾根に向かう。



真白な劔岳山頂

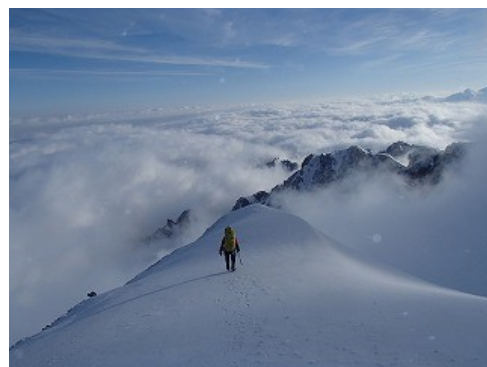
別山尾根との分岐の道標が出ていたので、すんなり下降に入れた。しかし一歩進むのもやとで、風にあおられては、か弱い女性3人は耐風姿勢で堪える。でも、小暮さんは先に進む。早月小屋までいくつもりかな…。今回、早月尾根上部が自分のなかでは核心であった。夏はクサリがあり、急な下りだ。ここをコンテで下る。

笹川さんがトップで行き、スノーバーで支点を取りながら進む。そのあとを付いていきたいのだが、とにかくBB弾の放射で前に行けない。ロープがピンピンに張った状態で笹川さんは身動きがとれず、申し訳ない気持ちでいっぱいだが、目が開かないのだからいかんともしがたい。傾斜が緩くなったところでロープをはずし、少し下降すると、小さな平にテント跡があった。風もよけられるので、少し休憩するつもりが結局、ここに泊まることになった。明日には天気が回復することはわかっていたし、無理に早月小屋までいかなくても…と思っていたので、「今日はここに泊まりましょう」と言った小暮さんが仏様に見えた。合掌。そうと決まれば話は早い。テント場を拡張工事し、新しいトイレも作り、ようやくテントに落ち着いた。ふう。泊まった場所は標高2910m。劔岳の山頂からわずか89m下っただけだった。ガリーの登りよりつらい89mの下降だった。

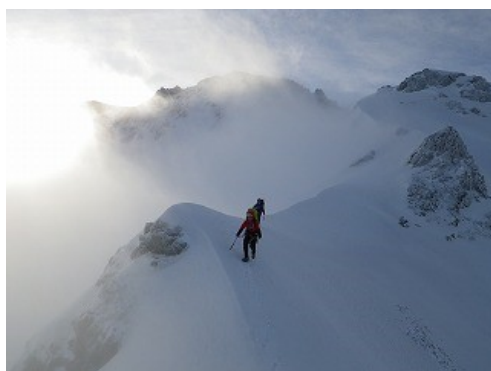
(記：松本)

5月6日 曇りのち晴れ

吹き溜まった雪に足が押されてよく眠れなかった。アイゼンとガチャを雪壁に作った棚にしまっておいたのは正解でした。朝のトイレタイムには都合よく曇っていたが、テントを撤収し始めると山頂がすぐそこに現れた。昨日の苦労を考えると悲しい距離感だが、ここに天場跡があったのは本当にありがたかった。



雲海に浮かぶ尾根



幻想的な早月尾根

天気が回復に向かう瞬間が素人でも良い写真が撮れるはずなのだが、みんな歩くのが早くて写真を撮るのに忙しい。右手には小窓尾根、左手には室堂がクッキリと見える。

早月尾根は小窓尾根を登った際にも下っているのだが、下り始めの鎖場しか記憶になかったのも、他に何もなかったと思っていたがダブルアックスでクライムダウンしたり、懸垂下降する場面も出てき

た。意外にも早月尾根が今回の山行の一番のポイントとなった。松本さんとサトリカさんのアイゼンの足取りが赤谷尾根を登っている時とは別人のようにしっかりしている。私は今回リハビリ山行で歩き方を忘れ、どうしたら歩けるのか小暮に聞いたら「右足出して左足出すと歩ける」とあたりまえ体操を教わった。古い！今日になってやっと何も考えなくても歩けるようになった。しかし、雪面が硬くなると膝が引っかかって更にメンバーを待たせてしまう。

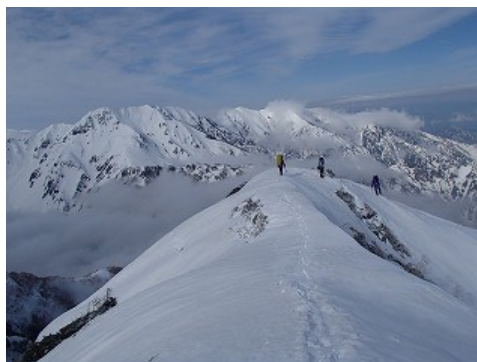
前に早月尾根を下った時はデッドマンを拾ったが、今回も落し物が多数有り。スノーバーやらリーシュが落ちていた。

今回の剣は今まで見た中で一番黒かったので心配していたが、林道まで雪を辿ることができた。山菜もわずかながらお土産にする事ができた。

3泊4日のリハビリ山行は厳しかったけど、大好きな剣に大勢で行けたのは今までにない経験だったので、良い思い出になりました。二人では実現しなかった山行だと思うので、メンバーに感謝！ですね。



昨日の悪天のおかげで得した気分？



4月のような雪の白さ



【行程】

5/3 馬場島(8:50)～赤谷尾根取付(9:30)～1400m付近(11:20)～P.1563(12:05)～
c.1930 c.1(14:25)

5/4 c.1(4:45)～赤谷山(5:50/6:05)～赤ハゲ(7:05)～白ハゲ(8:00/10)～大窓
(9:15/25)～池ノ平山(12:05)～小窓c.2 (14:00)

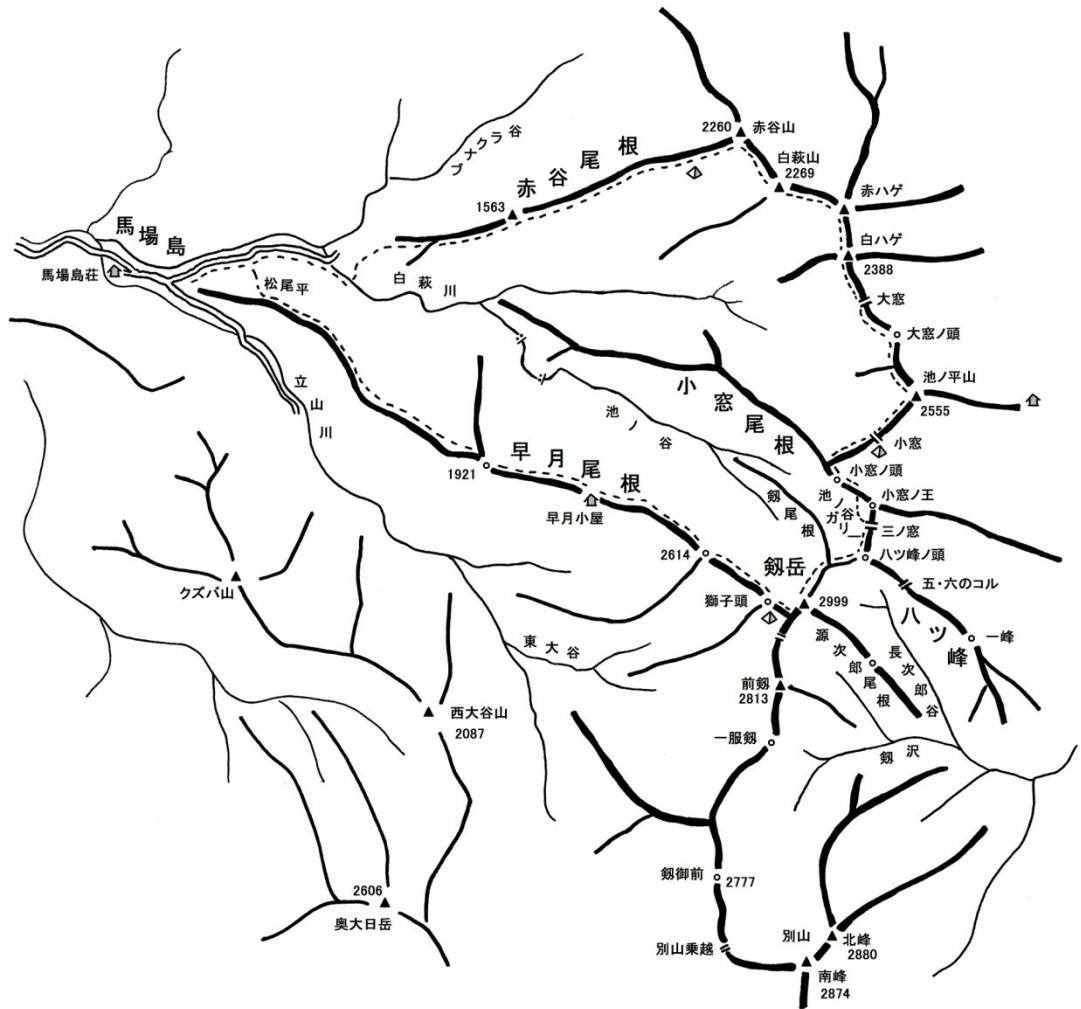
5/5 c.2(4:00)～三ノ窓(6:45/50)～池ノ谷乗越(7:45/55)～劔岳(9:10)～2910m付近
c.3 (11:10)

5/6 c.3(5:55)～早月小屋(8:15/40)～河原(10:50)～馬場島(12:10)

【地図】 毛勝山、劔岳



劔岳概念図(赤谷尾根～早月尾根)



作図:小暮